第２学年「国語」学習指導案

授業者　本田　祐吾

２月２１日（金）　２階D室　９：００～９：４０

１　単元名　　つたえたかったことを大切にあらわそう

２　単元について

単元目標	○話し手は聴き手を意識して発表する。聴き手は伝えたいことを考えながら聴き，応答する。 ○発表者の伝えたいことを意識しながら共同推敲し，よりよいことばや表現を考える。

今年の２年生も，１年生から継続してサークル対話を行っている。サークル対話では，発表者は生活の中で見つけたことや感じたこと，興味をもったことなどを話し，発表後は質問をしたり，発表と関連した聴き手の経験が話されたりしている。全員の発表が終わると，発表を振り返りながらお気に入りの発表をえらび，その内容を板書して全員で推敲を行っている（共同推敲）。そして子どもたちは皆で推敲して作りあげた文章をノートに視写し，家庭で音読をする学習材にしている。

この学習は，サークル対話「つたえる」で主として，話しことばでやりとりされたことをもとに，書きことばとして可視化し，発表者が伝えたかったことを大切にしながら，より良い文章にするものである。当然のこと，話しことばとしてこういうことばだと思っていたものが，書きことばで表してみると，違うことに気付いたり，何気なく使っていたことばに引っかかり，他の言い方がないかを自分たちの知識を総動員しながら出し合いながら考えたりすることが良くある。さらに言えば，ことばの順序や文章構成も意識して，より良い文章にしようとする。こうした学びが，「つたえる」での発表や質問を豊かにし，それがこの学習にも還ってくることが良くある。つまり，話しことばと書きことばが同時に学ばれることが良くあるのである。また，日常からことばを意識して使う，ことばに引っかかるなどの姿も良く見受ける。そもそも，子どもたちは乳幼児期に自分自身の手でことばを獲得してきている。そうした子どもたちの言語獲得能力を生かしたことばの学びを教室で作ることができれば，主体的な学びとしても，子どもたちが元々もっていることばへの感度を育てることにもつながるのではないかと考えている。

これまで，共同推敲を実践する際は，次の４つの段階で学習を展開してきた。⓪発表したことを板書する。①板書を一度読み上げ，漢字やひらがなの表記について検討する。②一文，もしくは，段落毎に文章を検討する。③句読点の位置について検討する。④文全体の構成を確認する。

本年度は，発表をよく聴き，内容を意識するだけでなく，過去に話し合ったことや学んだことを生かして考えようとする子が増えてきている。そのため，話題によって，子どもたちがこだわりたいところ，まず話題にしたいところが変わってくるので，その点にも注意しつつ，教師も何が大切なポイントになるかを考え，子どもたちと学習をつくることに気をつけている。子どもたちは，細かな表現にもこだわりをもって話し合うことが多いため，推敲にとても時間をかけているので，出来上がった作品数はあまり多くはない。また，子どもたちは文章の構成についてもこだわりをもって検討しているため，はじめ・なか・おわりなどを意識した発表や作品が多くあり，サークル対話「つたえる」でもそうした発表が多くなってきている。こうした学習の経験を物語や説明文などを学習する際にも生かして取り組んでいる。

３　学習指導計画（帯単元　３学期２０時間／１４時間目）　※サークル対話から本学習への流れ

（１）自分で発表する内容を考えておく。
（２）予約の順に６人くらいを目安に，１人５分位発表をする。発表後，質問や感想を交流する。
（３）全員の発表の後，それぞれどのような内容だったかをふりかえり，そこから題材を１つ選ぶ。
（４）選んだ発表を板書して共同推敲し，できあがった文章はノートに視写する（本時）。

４　本時の学習について

（１）本時のねらい

・発表者の伝えたいことを意識しながら，よりよいことばや表現を考える。

（２）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留　意　点
０　サークル対話で発表を聴きあう （前日の「つたえる」） 発表から題材を１つ選ぶ	○教師も子どもも発表を楽しむ。 ・話し手の伝えたいことに寄り添いながら聴き，応答できるように配慮する。 ・子どものことばがとがったものにならないよう気を配る。 ・必要に応じて，分からないことばなどの支援をする。 ○発表の内容を振り返り，題材をえらぶ。
１　選ばれた発表を共同推敲する	○発表者の表したいことに寄り添うことを大切にして推敲する。 ・推敲するポイントを整理しながら進める。
２　推敲した文章を視写する	○推敲した文章を丁寧に書くことと文章にあう絵を添えて，ノートに視写する。